

F. テキストファイルのインポート

次に、変換したテキストファイルを **Stata** にインポートします。コマンドウィンドウで以下を実行するか、またはメニューから以下を選択してください。

```
import delimited ファイル名, clear [encoding("エンコード形式")]
```

[ファイル] > [インポート] > [テキストデータ(デリメタ、.csv 等)]



ファイル名には入力するファイル名を指定します。**.csv** や **.txt** などの拡張子付きで指定します。二重引用符 (" ") で囲んでも問題ありません。ただ、別のフォルダにあるファイルは指定できません。encoding ("エンコード形式") を指定した場合、エンコード形式に入力した形式でファイルを読み込みます。

encoding ("Shift_JIS") あるいは encoding ("ISO-2022-JP") と指定すると、それぞれの形式で保存されたテキストファイルを文字化けなくインポートできます。(※Windows および Mac 上で作成したファイルは Shift_JIS、Unix 上で作成したファイルは ISO-2022-JP を指定します。) **Stata 14.0** メニュー操作をおこなう際、ダイアログに表れる「テキストのエンコード」では、「Latin 1」、「MacRoman」、「UTF-8」、「UTF-16」の 4 つのみしか指定できません。それ以外を指定する場合、コマンド操作をご利用ください。

[「4. 変換の検証」の先頭に戻る](#)

[「コマンドで変換を行う方法」の先頭に戻る](#)

[「Stata 以外での変換」の先頭に戻る](#)

Stata 以外での変換

文字の変換は、必ずしも **Stata 14** またはそれ以降を利用して行う必要はありません。文字の変換を行う方法は何通りも考えられます。ただ、**Stata** 以外での変換に当たっては、以下の点に留意する必要があります。

- **.dta** ファイルにおいては、**Stata** 以外を用いて **Stata** 独自のデータセット形式を認識しながら行うことができません。したがって、変数の値、変数名、変数ラベル、値ラベルなど、すべての情報を失わずに変換を行うのは困難な作業になることが見込まれます。
- **.do** ファイルや **.ado** ファイルにおいては、それらが純粋にテキストファイルであるため、一般的なテキストエディタなどを用いて変換を行える可能性があります。
- **Stata** 以外で変換を行う方法の一つとして、①**.dta** ファイルをテキストファイルへエクスポート、②テキストファイルを **UTF-8** で保存、③保存したテキストファイルをインポート、という手順で実施する方法が考えられます。この方法は比較的短い作業で、かつ広く一般的に用いられている方法で変換を行えるという長所があります。一方で、前述のように変数の値と変数ラベル、変数名以外のデータが失われてしまいます(逆に言えば、**.dta** ファイルでそれら以外を利用していない場合は、極めて有用な手段になります)。
- テキストファイルを **UTF-8** で保存する場合、テキストとして表示されない **BOM** というデータをファイルに含める方法と含めない方法の 2 通りが存在します。**Stata** 用に変換を行う場合、この **BOM** がない方法で保存が行われる必要があります。もし、**BOM** を含んだ方法で保存したファイルを **Stata** で利用しようとする、ファイルがインポートできなかつたり、コマンドが実行できなかつたりします。**Windows** のメモ帳は **UTF-8** での保存ができる大変便利なツールですが、**BOM** を含めない方法で保存することができないため、この変換には利用できません。

以下には、関連する機能についての説明です。

- E. [テキストファイルへのエクスポート](#)
- F. [テキストファイルのインポート](#)

[「コマンドで変換を行う」の先頭に戻る](#)